

だい かい
第14回
に ほん ご
**日本語
スピーチコンテスト**

つたえる ことば
つたわる きもち
つながる よろこび



2019年3月3日(日)イーグレひめじ3階あいめっせホールにて、第14回日本語スピーチコンテストを開催しました。今年は、アメリカ、インドネシア、スリランカ、スロバキア、中国、ネパール、バングラデシュ、ベトナム、ミャンマーの9か国から14名が個性豊かなスピーチを披露しました。



金賞に輝いたのは、「私はお母さんが好きじゃないです。」というスピーチを発表したベトナム出身の技能実習生グエン ティ ズさんです。子供の頃、お母さんは嘘をつき、保護者懇談会にも旅行にも来てくれず、お母さんが好きではなかったそうです。しかし、大人になり、お母さんは自分のことを後回しにし、家族を優先するために嘘とわかり、他の人と同様に自分のことを楽しんでもらいたいと発表されました。これからはお母さんを支えていきたいと締めくくり、観客を引き込みました。



銀賞に選ばれたのは、「おばあさんたちとのお話」というスピーチを発表したインドネシア出身の留学生プトウ カルティカ チャンドラ レスターさんです。介護施設でアルバイトをしていて、一番困るのが言葉だと発表されました。施設のおばあさんたちから、学校では習わない言葉(例えば「チリ紙」や「前掛け」)や日本の童謡を教えてもらい、今は施設のおばあさんたちに聞いてもらうためにたくさんの歌を覚えたそうです。



銅賞は、「ボランティア活動を通して」というスピーチを発表したスリランカ出身の留学生ウベラツナ ワドゥアチャリゲ アシャ プレボダニ ヘマンサさんです。2018年8月の岡山県の大雨による洪水被害のボランティアに参加したことを話されました。2004年に発生したスマトラ島沖地震の津波でふるさとのスリランカが被害に遭った時、日本人ボランティアがいち早く助けてくれ、感謝していると付け加え、日本で何か被害があった時は一生懸命手伝いたいと締めくくりました。





観客の投票で選ばれるオーディエンス賞には、「日本で学んだ事」というスピーチをしたインドネシア出身の高校生、ジェリタ ティオリナ ナオミ パンジヤイタンさんが選ばされました。自らの貴重な留学体験を、誰も留学したことがないふるさとの子供たちに紹介したいと強く訴えました。帰国を前にして、日本での素晴らしい経験を持ち帰り、インドネシアの子供たちが自分の経験を聞いて、挑戦する気持ちを持ってほしいと話されました。



審査の間には、インドネシア・バリ島の竹楽器「リンディック」の演奏とネパール舞踊の発表がありました。

リンディックは、バリ島でお祝い事の時に演奏される楽器だそうです。また、最近ではバリ島のレストランやホテルのロビーでも観光客の歓迎演奏として、よく耳にするようになったそうです。柔らかく伸びやかに響き、とても心地よい音色でした。



ネパール舞踊の発表では、ネパールで有名な「ティクリ ハイ メロ タラ タラ」という曲に合わせて情熱的に演舞されました。また、華やかな衣装やきらびやかな装飾品にも魅了されました。「ティクリ」はネパールの女性が額につける赤いしるしのこと、「ハイメロ」は私のという意味で、「タラタラ」はキラキラという意味だそうです。



満員になった会場からは、「どの人の発表にも、勇気と行動力を感じました。きっとその国の人と日本の架け橋になられるだろうと思いました。」や「若い方々の前向きな力強いスピーチを聞いて、感激し、力を頂きました。」などたくさんのメッセージが寄せられました。



姫路市内には様々なバックグラウンドを持つ在住外国人が生活しています。この日本語スピーチコンテストは、日本語を母語としない在住外国人が、日本語学習の成果を発表する機会を提供するとともに、市民のみなさんに多文化共生社会について考えるきっかけを提供することを目的に年に1度開催しています。今年度は、9か国から14名の参加者が日本・姫路市で生活していて感じることや伝えたい気持ちを発表しました。外国人ならではの視点や指摘にハッとさせられたり、日本の良さを再認識させられたりと、毎年大きな反響を呼んでいます。

